

教育センター通信

ほ ど
火床の火の心を紡ぐ

第8号(通算 135 号)
令和7年12月19日

三条市教育委員会
教育センター発行

小中一貫教育
トップページ



ーノ木戸ポプラ学園

学園運営協議会での児童生徒を交えた熟議

「学園のよさ、課題、目指す姿 … 夢を語ろう」

時には語らいを

教育センター 指導主事 秦野 真一

私の前任校は、十日町市立ふれあいの丘支援学校です。共生の理念の下、十日町小学校と発達支援センターの3施設が一体型校舎に併設された全国初の「夢の学校」として、平成25年に開校した学校です。

開校当初から、「交流及び共同学習」を教育課程の中心に据え、共生社会の実現に向けた実践を重ねています。中学部生と十日町小学校高学年の「交流及び共同学習」では、中学部生が日頃の職業基礎の学習を生かし、十日町小学校の高学年に食器洗いや清掃の仕方についてレクチャーします。

十日町小学校の6年生の真剣な目が中学部生の動きを見つめる中、中学部生は授業で学んだ雑巾がけの手順を丁寧に小学生に伝え、洗練された動きで掃除をします。緊張しながらも学びの成果を精一杯発揮する中学部生の誠実な姿、そしてその素晴らしい仕事ぶりに敬意を払う小学生の素直な眼差しが教室を包みます。

「夢の学校」では、障がいのある子もない子も、一緒に生活することが当たり前の日常を送っています。これは、一体的な校舎の中で共に学び、共に育ってきた成果です。

教職員も合同で職員会議や研修会等を実施し共通理解を図り、互いの専門性を高め合います。そして、この校舎に託されている夢を語り合います。この校舎で学んだ子どもたちが社会に出たとき、親になったとき、共生を学んだ子どもたちにどのようなようになってほしいのか。共生社会の担い手となり、人に優しく温かい街になってほしい。未来の人材を育てることもこの校舎に託された夢の一つではないか。このような語らいが3つの施設の一体感につながりました。

私は、夢の学校の考え方と小中一貫教育の取組には、多くの共通点があると考えています。カリキュラムの活用や交流活動、キャリア教育等、9年間の学びと育ちを意識しています。小中一貫教育で学んだ子どもたちは、今後どのような大人に育ってほしいのか。多忙な毎日ですが、未来の子どもたちについて互いに思いや願いを語り合っていきましょう。

学園紹介

三条嵐南学園

11月6日（木）、小学校5・6年生と中学校1年生による「いじめ見逃しゼロスクール集会」を開催しました。はじめに、班員同士の緊張をほぐすための交流活動を行いました。中学生は、小学生の興味を引く話題を提示したり、相手の言葉を上手に引き出したりしながら、和やかな雰囲気づくりをリードしました。その結果、小学生の表情にも徐々に笑顔が見られるようになり、続くグループ活動では『いじめをしない・見逃さない・許さないために、自分たちに何ができるのか』をテーマに、活発な意見交換が行われました。中学生のリーダーシップと小学生のフォロワーシップがうまくかみ合い、限られた時間の中でも、すべてのグループが自分たちのあり方を見つめ直す行動宣言をまとめることができました。



小学生と中学生で行動宣言作成



協力して行動宣言の発表と共有

さかえ学園

11月19日（水）、栄中学校にさかえ学園の小学校6年生と中学校2年生が集まり、「学園いじめ見逃しゼロスクール集会」を実施しました。昨年度に続き、タレントの 今井 美穂様から「自分らしく、幸せに生きる」をテーマに御講演をいただきました。

講演後は、小学生と中学生の混合グループに地域の皆様にも加わっていただき、「自分も周りの人も大切にするために、自分たちにできること」をテーマに話し合いを行いました。子どもたちは、「自分の意見だけでなく相手の意見も聞く」「誰にでも声を掛ける」など、具体的な行動につながる考えを積極的に出し合っていました。小学生からは「中学生が率先して声を掛けてくれてすごい」という感想があり、中学生からは「小学生とコミュニケーションをうまくとることができた」という声が聞かれました。多様な学びが見られた、たいへん有意義な活動となりました。



コンプレックスは、考え方を変えると長所に変えることができると分かりました。そして自分を変えるためには、まず行動してみることが大切だと思いました。今井美穂さんのお話はとても心に残り、考えさせられました。

いじめ見逃しゼロスクール集会
参加生徒の感想

大崎学園

大崎学園では、学園生同士の絆づくりを大切にした教育活動を進めています。11月19日（水）には「絆づくり集会」を実施し、今年度は1年生から9年生までの縦割り班で「ハートピースづくり」や「絆ダンス」に取り組みました。集会当日だけでなく、昼休みには「つながりタイム」を設け、前期生と後期生の交流を図りました。学園全体に温かい笑顔が広がる時間となりました。

また、12月3日（水）には双華会（生徒会）選挙の立会演説会を行いました。前期生と後期生が協力して学園をつくっていくため、立会演説には5年生以上が参加しています。次期会長・副会長候補の話からは、学園をよりよくしていこうとする強い思いや熱意が伝わってきました。



絆づくり集会「ハートピースづくり」



双華会選挙「前期生も投票」

しただの郷学園

11月20日（木）の午後に、下田中学校食堂にて「しただの郷学園 学校保健委員会」を行いました。例年は保護者・地域の方々を対象に実施しておりましたが、今年度から各小学校の5・6年生と下田中学校1年生も参加しました。国立病院機構さいがた医療センター依存症治療チーム Sai-DAT のメンバーで看護師の 高橋 慧 様を講師としてお迎えし、ゲームやインターネットなどのメディアに依存することによる悪影響、メディア依存を防止する方策などについてお話を伺いました。

メディアとのよりよい向き合い方を学ぶとともに、小学生と中学生と一緒に話を聞き、意見や質問を交わすことで、互いの生活の様子を理解し合い、考えや意見を知る貴重な機会となりました。



小中合同で参加した学校保健委員会



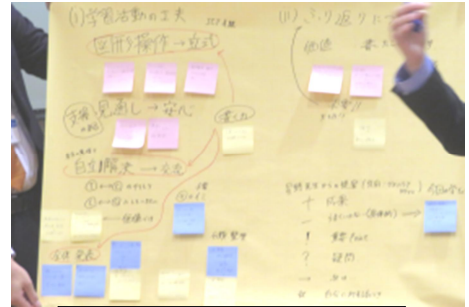
講師 高橋 慧 様

算数・数学指導力向上研修②

市教育センター主催「算数・数学指導力向上研修②」は、実践的な研修を通して参加者が指導力を高めることができるよう、次のように今年度の研修内容を変更しました。

- 算数・数学担当教職員は、自学園の授業研究会以外に、指定された3学園のいずれかの授業研究会に参加する。
- 指定された3学園には、授業構想や指導案検討の段階から指導主事が支援に入り、授業や協議会の内容を検討する。

指定3学園では、指導案検討に学園の職員が集まり、熱心に議論が交わされました。特に、「学習問題◎」の設定とそこに至るまでの流れや「学習課題」の内容についてどのようにしたら児童生徒に問題意識をもたせられるか、という視点で話し合われていたことが印象的でした。今後は、先生方にとって負担感の少ない方法や全学園共通のテーマを設定するなど、よりよい研修となるよう改善を図ってまいります。



参加者の感想（一部抜粋）

今回の研修では、授業に対する多角的な見方を学んだ。対話的な学習をスムーズに進めるために教材を用意していたことを良いと捉える意見がある一方で、用意した教材をもっと学校に関係あるものに変えて提示するべきだったと捉える意見もあり、自分ももっと広い視野で見る必要があると感じた。今回の研修会で学んだことを、自分の授業に活かしていきたい。

KPT法による協議会記録

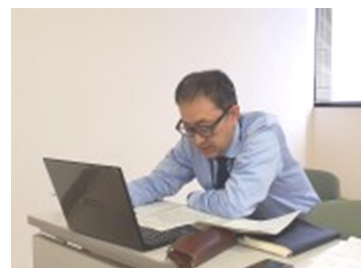
マンツーマン研修で一層の授業改善を（授業力向上研修 Step1・2）

授業力向上実践研修 Step1・2は、6月から12月までの半年間で計40回以上の研究授業が行われ、3学期にも予定されています。

今年度、これまでの研修スタイルを大きく変更し、特に Step1 研修では、担当指導主事が学校を複数回訪問する「参観訪問」方式で研修を進めました。1学期の早い時期から授業を参観し、受講者と授業づくりや学級経営について一緒に考えました。また、学習指導案の事前検討会や校内研修会に担当指導主事も参加し、受講者とともに丁寧に授業づくりを行いました。本番の授業公開では、子どもと真剣に向き合い、熱心に授業に向かう受講者の姿が見られ、参観者は研究授業を通して多くのことを学ぶことができました。

研修を通して、多くの受講者が情熱と意欲をもって授業づくりに取り組んでいることが感じられ、とても嬉しい気持ちになりました。また、授業が少しずつ改善され自信を深めていく受講者の姿に、教師としての成長を感じることができました。生徒指導や学級づくりについての悩みを一緒に考えることができたことも大変有意義でした。

11月末の学習会③では、受講者が、担当指導主事とオンラインで実践について振り返りました。この後、Step1受講者はその成果と課題を「実践のまとめ」に、また Step2 受講者は教育研究論文にまとめます。今後も校内教職員の皆様の御指導御支援をお願いします。



学習会③(オンライン)での個別相談